

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町 (小町)		
所在地	岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成23年10月16日	評価結果市町村受理日	平成23年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102848&SCD=320&PCD=21
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の基本理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、人間の持つ生命力を引き出し、心身の活性化につなげることを遵守すること。そして、利用者のありのままを受け入れ、最期までその人らしく生き抜くことを援助し、安らかな死を迎えられるように職員一同誠意をもってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者夫妻の両親がホームの畑を耕作し、収穫した新鮮な野菜を食材に取り入れている。職員は、胃ろうや透析等への対応食の調理法を学び、利用者一人ひとりの体調に合わせた食事を提供している。開設以来、8年で36名が利用し、「看取り指針」により、家族・医師・職員が一体となり、12名を看取る中で、看護師である管理者は、職員の精神面のケアの必要性に気づき取り組んでいる。家庭生活に配慮した勤務形態を取り入れ、職員のほとんどが常勤として定着しており、利用者・職員共に、和やかで、落ち着きのある雰囲気の中で生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」の理念が示すように、自然が豊富にある地域の中で、地元住民との触れ合いを大切にしている。	理念は、「自然の恵みを受けてありのままに」を掲げ、職員は、日常のケアの場面で、常に理念に立ち返り、確認し合い共有している。地域住民とのふれあいを大切に、最期までその人らしい生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者や職員の多くは、事業所のある地域に暮らしており、また、地元住民の皆さんとも顔なじみとなっているため、毎日の散歩の際には立ち話などを行っている。	事業所の開設に際し、地元の人達に相談、協力を得て以来、自治会の一員としての交流が続いている。外出時には挨拶を交わしている。介護に関する相談に応じ、住民に必要とされる役割りを積極的に担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の会合において、ホームの取り組みや生活を知っていただくことができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回ホームでの様子をお知らせすると共に、ご家族様や地域からの意見・要望等を聞き、みんなで支えていけるように話合っている。	行政や地元の役員、家族が参加し、2ヶ月に1回開催している。運営や利用者の状況を伝え、看取り等事業所の取り組み等を説明している。参加者からの意見や要望は、日々のサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東部在宅ケア会議やグループホーム協議会での意見交流時や、問題が発生した時などにはすぐに聞くようにし、指導を受けている。	管理者は、足繁く行政に出向き、情報を得ている。地域包括支援センターでは、介護上の困難事例を相談する等、常日頃から協力関係作りに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は常に開いており、自由に出入りができる。職員は身体拘束による弊害を理解しており、拘束をしないケアが身についている。	学習会やカンファレンスの中で、マニュアルに基づき「拘束について正しい理解を得る」ことを学び、全職員が「拘束をしないケア」を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修をしており、職員間の情報交換等により虐待の早期発見ができるように努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修により制度の理解はなされている。対象者があれば、管理者とともに取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約の際には、十分な説明とホーム内の生活や職員の態度等を実際に見て納得していただけるように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の方が気楽に話しかけることができるような雰囲気を作るために、職員は常に声掛けや笑顔で対応し、意見や要望を引き出せるように努力している。	運営推進会議に欠席の家族からは、事前に意見を伝えてもらっている。アンケートを実施したり、面会時には呈茶の接待をしているが、返ってくるのは感謝の言葉が多い。	家族からは、不満・要望・意見等は、言い出し難いことを理解し、積極的に聴く努力や、場面作りに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者はいつも出勤しており、職員の意見等はいつでもすぐに対応している。また、月に1度は管理者と全職員の運営に関する話し合いの場が設けてある。	全体会議やミーティングは、全職員が出席し、実施している。職員は自分の家庭の事情等を伝え、勤務割に反映してもらおう等、意見や提案を気楽に話し合える環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各職員が向上心を持てるようにキャリアパス制度を導入し、資格や能力に応じて昇給できるように整えた。また、親睦会の場を設け職員同士が和やかに働けるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がさらにスキルアップできるように、一人一人の能力に合わせた研修を受ける機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等を通じて知り合った他施設の人の見学や情報交換ができるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や入居に至るまでの環境並びに経過を知ることから始め、本人の気持ちを受け止め、徐々に信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の思いを理解し、入居初めころは、電話等によりホーム内での生活を伝えることにより、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は、まず今一番困っていることや将来的にどのようにしたいか等を踏まえて聞くようにしている。そのうえで適切なアドバイスができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に主体を利用者に位置し、利用者と共に生活をし、共に生きていこうと努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら、本人と家族との関係がさらに密接になれるような場を提供できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで築いてきた関係が疎遠にならないように電話、手紙、訪問等続けていけるように支援している。	友人、知人、身内の人が訪門し、居室で語り合ったり、一緒に馴染みの店で買い物や食事をしていくことがある。電話連絡を取り持ち、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格や行動を把握することにより、利用者同士が助け合い、穏やかにかかわりが持てるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のサービス終了後も家族を取り巻く、親族・友人等の相談を受けたり、ご利用に結びついたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどのように生きていきたいかをベースにして、その時その時の思いを傾聴し、職員全員でその思い等をどうすれば実現できるかを常に考える姿勢でケアに向き合っている。	本人の生活歴や人生経験を傾聴し、思いを把握している。困難な人には、表情やしぐさから思いを汲み取っている。家族の協力を得て、利用者本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を作成することにより、これまでの暮らしを理解し、その人らしい毎日が送れるように日々努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日個別に健康状態や心身状態を記録するとともに、本人の好きなことできることを見極め、適切なケアを提供できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンス等において日々検討をしている。その意見を基に介護計画を作成している。	介護計画作成の前に、利用者や家族から意見を聴いておく。職員の気づき、医師・看護師からの情報等を基に、ケースカンファレンスやモニタリング等で話し合い、利用者一人ひとりがその人らしい暮らしを続けるための介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づいたことを個別記録に記入し、ケアの実践や本人の様子の変化を職員同士で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに合わせて、臨機応変にサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を有意義に活用しながら一人一人が社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように、事業所全体で工夫していくことを考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には今までの主治医を継続し、その時々々の病状に合わせ、安心して適切な医療を受けられるように受診時は看護師が同伴し支援している。	契約時に、かかりつけ医は希望に応じること、協力医による往診は月2回あること等を説明し、利用者や家族に、かかりつけ医を決めてもらっている。受診時の通院介助は管理者が支援し、家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は今後起こりうるリスクを介護士に情報提供し、介護士は日々のちょっとした気づきを看護師に伝えることにより病状の早期発見につながるよう指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には本人の情報提供を速やかに詳しく伝え、入院中も現在の状態を病院スタッフに聞きながら、主治医、家族、事業所との連携により早期退院に向けて実現できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」により職員に周知してある。主治医・家族・事業所(看護師及び管理者)と今後の方針を話し合い、その時々々の状態変化に検討をしていながら対応している。	契約時に重度化について事業所の指針を説明し、状況の変化に応じて話し合い、常に家族、職員、医師の合意を図っている。「看取りに関する指針」により、開設以来12名を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成してあり、また、その研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自治会長さんに参加していただき、避難訓練を行っている。	年2回(1回は夜間想定)、自治会長が参加し、避難訓練を実施している。数年前、近隣で火災が発生した際に、自治会の人達が大勢駆けつけ、協力してくれたことがある等、地域とのつながりが深い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の「快」となる物事を見つけ、価値観等を尊重しながら、職員の考えを押し付けないケアを心がけている。	「自信のないことはさせない」等、一人ひとりの誇りを傷つけないケアを実践している。排泄、入浴のように羞恥心の伴うケアについては、言葉掛けや対応に配慮し、その都度、確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の細やかな自己決定を優先し、本人のペースに添った援助を行っている。どんな場面でも本人が主体性をもって生活ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活習慣を尊重し、柔軟な支援ができるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりや好み等を尊重しながら、季節に合った身だしなみができるように援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを把握し、旬の食材を取り入れるようにしている。また、利用者と一緒に下ごしらえをしたり、後片付けを行っている。	食材の下ごしらえや片付け等、職員と共に行っている。透析や胃ろう等、一人ひとりの利用者の体調や好みにあった献立を準備し、職員も、介助をしながら、利用者と共に、ゆったりと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足が起こらないように、日々食事摂取量を把握し、体調や運動量に応じた食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はもちろんのこと、定期的な歯科メンテナンスを受けることにより、口腔内のトラブルを防ぎ、清潔保持に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握するとともに必要な補助具及び介助を見極め、排せつの自立に向けて支援している。	排泄チェック表により利用者の排泄のリズムを把握し、さり気ない誘導を行うことで、トイレでの排泄ができ、失禁も減った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の状態を確認し、排便チェックを行っている。また、便秘がちな利用者に対しては水分補給等を適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日は決まっているが、本人の体調希望等により柔軟に対応している。	入浴は週3回を基本とし、利用者が分かり易い、日替わりの順番表を大きく明示し、公平な入浴が受け入れられている。重度の利用者は、週に1回、シャワー浴や併設施設の機械浴で、ゆっくり浴槽に浸かる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や生活パターンに合わせ、無理強いすることなく安心安楽に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別カルテに薬の情報があり薬の副作用を含め理解している。、誤薬等が無いように確認し本人の状態変化にも注意をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、花の水やり、カーテンを開ける等それぞれに役割分担があり、意欲的に生活ができるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に出かけ季節感を味わうことができるように支援している。また、家族様にも協力していただきながら、本人の希望に添えるように心がけている。	毎日、近くのお地藏様や神社まで散歩したり、喫茶店に出かけている。希望に応じて、一人でも、菓子の買い物等、職員と共に出かけている。盆の墓参りには、家族が同行している。	日常的な外出支援の他に、家族の協力も得て、特別な楽しみや、行きたい所へ、これまでの生活を継続した外出に期待したい。

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者には家族の理解のもと、自分で持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人のプライバシーに配慮しながら、利用者が自由に電話をしたり、手紙を出せるように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設の理念である如く、五感を刺激し快適な生活空間が保てるように配慮している。	広いリビングの窓外には田畑が広がり、四季折々の風景を楽しむことができる。中庭には季節の花々が咲き、風に揺れる洗濯物や厨房からの料理の匂いから生活が感じられる。共同作品や思い出の写真等が廊下の壁に程良く掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの性格や生活パターンを理解し、利用者同士がお互いにストレスを感じる事がないように配慮し、気の合う者同士や、一人になれる空間の確保等に心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が少しでも落ち着いて暮らせるように、馴染みの物など家族と相談して自由に持ってきていただいている。	持ち込まれた椅子、小物、孫の写真等を利用者の使いやすさ、居心地のよさ等に配慮して配置し、その人らしい居室となっている。食後は居室で休養する等、安心して過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の歩行状態に合わせ車いすでもつたい歩きでも持てる能力を最大限に生かせ、安全に移動できるように設計がなされている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム 花咲小町(式部)		
所在地	岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成23年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で 不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサー ビスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた 柔軟な支援により、安心して暮らして いる (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然環境豊かな立地に恵まれ、太陽の光新鮮な空気など、利用者に自然に感じ、心地良いありのままの生活を、送っていただけるよう、心掛けており、理念は入り口の目立つ場所に掲げ、共有、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時、地域の皆さんと、笑顔で挨拶を交わしたり、時には立ち話などする。祭りや、防災訓練などにも、参加していただいた。また、何時でも、見学して頂きホームを、知っていただけるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	プライバシーに配慮しながら、グループホームとは、どういった所なのか、利用者はどのように、生活しているのか、日常会話のなかで、地域の皆さんに、知っていただき興味を持ち、理解を深めていただけるよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた、意見や指摘事項をスタッフ全員で共有し、利用者家族の思いを、汲み取りより良い、施設作りのための報告、意見の場としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に、連絡を密に取り、指導いただき協力関係を、築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は、玄関など施錠はしておらず、自由に庭に出て、花などをみられるようにしている。職員全員が、身体拘束による弊害や、その方の尊厳を、心えており、不穏状態の利用者には、拘束せず側で見守るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者指導のもと、高齢者虐待防止に取り組んでおり、職員は小さな傷、利用者の様子など変わりが無いか常に注意を払い、連絡を取り合っている。また、目には見えない言葉の暴力に、付いても重視している。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前当ホームにも、青年後見制度を利用されていた方がみえました。現在、研修の場でもよく話されており、研修に出た職員が戻り、カンファレンスの時などに他の職員に伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書などで、事業所の考え方等を、説明し納得いただいている。また、事業所で、可能な事、不可能な事、生活して行く上でのリスク等に付いても、説明し納得いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の来所時、職員の方より声を掛け会話しやすい環境を作り、気に成る事、改善して欲しい事など、気軽に言っていただけるよう心掛けている。玄関に、意見箱を設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、責任者は、毎日出勤しており、職員の意見に、柔軟に対処してもらえる。また、職員が意見や要望、提案など言える場を作ってもらえる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、責任者は、職員の意見、要望に、柔軟に対処し、職場環境を整え働きやすくなっている。職員各自が、向上心を持ち働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画にそって、職員のレベルに合わせた研修に交替で出席し、他の職員にも伝える場をもち、皆が勉強し質の向上に努めている。また、研修出席時、勤務の配慮を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を持ち、お互いに争いながら良い関係を築き、より良い施設づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くには、まず、利用者と向き合い、より多くのコミュニケーションの場を持ち、その方の言葉に、耳をかたむけ共感できる関係を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの介護の苦勞を労い、今、困っている事、不安など話していただき、家族の思いに沿ったケアが提供できるよう、職員で話し合いケアしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にとって、今、何が必要か見極め、必要に応じて、他のサービスの利用の調整を、行うなど出来る事は速やかに実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員利用者、一人ひとりが、家族として共にし、言葉だけではなく、その人の思いが受け止める事が、出来る関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は、近況報告をさせていただき、不安に思う事、疑問、要望などある場合すみやかに、対処している。毎月、小町たよりを発行し、利用者の様子が、家族に分かるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力を得て、今まで行き付けの、美容院やスーパーなどへ、行かれたり、自宅へ、行かれたりされる。また、以前使用していた、馴染みの物を、持って来て、みえる方も、みえる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの、性格や能力を、把握する事により、能力を、発揮出来る場を作り、利用者同士が、みずから、手を貸し合い、移動や食事の準備をしている。職員は、それを、見守り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	初盆や一周忌には、はがき等で故人を偲び、ご家族と偶然お会いしても気楽に、声かけられるような関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、暮らしを共にしていると、何を、どうしたいのかが分かるように成り、その方の、思いが伝わってくるようなケアを心がけ、職員同士連絡し、話し合いケアしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートが作成しており、それを基に、昔の事を回想し、その方の、歩いてこられた人生や思いを、より深く聞き出し把握し、その方、一人ひとりに合ったケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が、常に側で見守り、心身状態や、一日の過ごし方など把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでのケアは、統一されていなければいけない、そのためには、介護計画の作成は重要であり、定期的に行われるケアカンファレンスで出たニーズをもとに利用者家族の思いをふまえ、その方にとって最善のケアが出来るよう計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルが、作成されており、身体状況、健康管理及び日々の暮らしぶりが、記録されている。、職員皆で、情報を共有しケアの見直しや、評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を軽減するため、病院の受診に付き添う。病状やその時の状態を把握した食事の介助、買い物や美容院などの付添を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな暮らしが出来るよう、地域の方やボランティアの方の協力を頂いている、特に月1～2回ほどボランティアの方に、唄や踊りなどやっていただき、利用者の方に楽しんでいただいている。、豊かな心を持っていただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による、2週間に1度の往診が有り継続して健康管理している。また、状況や場合により、本人や家族の希望する、医療機関に受信出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早い段階での、状態の変化のきずきは、重要であり、看護師との、連絡や情報は密に取っている。また、24時間連絡が取れるよう、体制が整っており利用者職員共に、安心して暮らせる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院時は、看護師が必ず付き添い、必要な情報提供をしている。入院中も、家族との連絡を密に取り、状態の把握に努め早期退院に向けて、関係者との話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、事業所として可能な限り、医療機関や家族の協力のもと、状態の変化にそのつど、確認しながら、その人らしく、最後まで生き抜く事が出来るよう支援する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルが、作成されており、それに基ずいて勉強会を設けている。看護師とも、連絡体制が整っているため、速やかに対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をおこなっている。また、避難経路、消火器の設置場所使用方法など、職員度同士で確認している。避難訓練時には、地域の方も、出席していただいた。台風時には、食料、水の確保など、早めに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の、人生や人権、人格などを、否定するような、会話や態度をしていないか、職員同士で、話し合い注意し合う。プライバシー保護は、とても重要な事と、職員全員が認識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの場をより多く持ち、本人の気持ちを引き出す言葉かけや、表情から何をしたいか、読み取る事が出来る関係を、作る努力をしている。また、相談に乗ったり、助言する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な、1日の生活パターンは出来てはいるが、その人のペースで生活出来るよう、側で見守り好きな事、出来る事を、続けて行けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2~3回入浴しており、その際出来るだけ自己にて、洗ってもらうよう声掛けし、出来ない事は、職員が援助している。着替えの準備も、本人に尋ねながら一緒におこなっている。洗面、整髪など側で見守り声掛け支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを貼りだし食事を楽しみにしてもらっている。メニュー会議や誕生日会の際、希望を、取り入れている。メニューには、その時の旬の物を、取り入れるようにしている。畑で取り立ての野菜がいただけ、豆のすじ取りや皮取りなど手伝っていただく		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立をたてている。一人ひとりの好みや体調、嚥下状態を把握しその方に合った食事形態を、職員で話し合い、スピーディに対応している。また、食事水分制限の方も有り、脱水などにも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食生活は、大変重要と考えており、そのため歯は大切である。また、誤嚥性肺炎の予防と云うてんからも、毎食後の口腔ケアは、欠かす事ができない。衛生士の指導のもと、一人ひとりに合ったケアをおこなっている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行なっている。自立に向け、側で見守り出来る事は小さな事でも、声掛け出来るよう支援している。一人ひとりの身体能力を見ながら、その人に合った排せつ介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食物繊維の多い食品や、海藻、乳製品、水分などをバランス良く取っていただき、軽い運動などして頂くよう声掛け、支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	危険が無いよう、見守りが出来る範囲で、声掛け入浴を楽しんでいただいている。声掛け、拒否されても強引に入れる事はない。気持ち良く安全に、入浴できるよう、浴室も整備されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、必要な睡眠や休息が取れるよう、居室など整備し、安心して休む事の出来る環境作りに努めている。また、居室もプライバシー保護に、配慮されており安心して過ごして頂ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用する目的をしってもらい誤飲や飲み忘れを、防ぐため、食後職員が服薬、服薬確認を確実にこなしている。薬が変わった時などは、状態の変化に留意し、看護師と連絡を、密に取り合い、早期対応出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方にはテーブルふきなど簡単な、仕事を毎日出来るようにしており、出来る方が、出来ない方のお世話を下さる事もある。趣味や得意としている事を、毎日づつ付けて出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日気分転換や社会性を保つため、散歩に、出かけ地域の方々と会話などしている。また、家族の協力をいただき、食事や買い物などに出かけられる。皆さんと、モーニングコーヒーに、喫茶店に、出かけ楽しまれている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、自分で管理出来る範囲で、所持されていて、ひ孫さんたちに、お小遣いをあげたり、葉書やあめといった、ちょっとした物を職員に頼まれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人より申し出があった時いつでも、使用出来るようにしている。葉書手紙等も、自由にしている、要望があれば購入して来る事もあり、暑中見舞や年賀状は、写真など使い家族に、近況をお伝え出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その、季節や天気に合わせて、心地良く皆さんが過ごせるよう、窓やカーテン照明などそのつど、調節し、危険箇所や物がないよう配慮している。また、その季節の、花や散歩で摘んで来た草花などを玄関やリビングに置き、季節を感じて頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中では、一人ひとり、気に入った場所があり、いつも所定の場所で過ごされているが多い。日中は、好きな場所で好きなように過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーを大切に、家族と相談しながら、本人が気に入っている物や、自宅で使用していた物など持って来てもらい自然に落ち着く事の出来る工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活より、一人ひとりの身体能力を見極め、自分で出来る事を、持続していけるよう環境を整え危険の無いよう日々点検する。また、補助具もその時の状況を観察し、職員で話し合い速やかに導入する。		